



知恵と力を出し合って 我が「まちづくり」に邁進

平岡地区町内会連合会

会長 大橋 良一

03年の春、上田札幌市政が発足して、いち早く手がけられたのが「新札幌まちづくりプラン」三年(04~06)計画でした。大都市札幌には、80を越える「まちづくりセンター」があり、地域の自治活動と手を携えて「まちづくり」をすすめています。平岡「町連」は、十の専門部が二十五の単位自治組織と苦労とともに、明るく平和な住みよい「まちづくり」に努力しています。

雪と氷に覆われていた住宅地内の道路が顔を出します。ところが、あちこちに除雪作業で傷ついたところや磨耗が目立ちます。町内の道路は作られて二十数年を経ており、最近は舗装面から埋設工作物であるマンホールの突出や、マンホール周辺の舗装面の破損やひび割れが多く見られます。

点検の方法は、その年の担当役員の工夫で異なります。

詳細なチェックリストで班長・役員全員が分担して自宅に関係する部分を点検したり、交通安全関係役員が全般を点検する場合もあります。

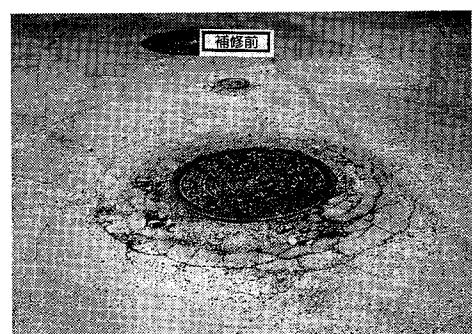
当町内会では、毎年、道路標識など交通安全施設を点検し、補修を関係機関にお願いしています。雪と格闘する長い冬が終わると、

交通安全施設の点検に関連して

平岡北町内会 会長 関口 岩雄



(補修後)



(補修前)

要望書の提出時の状況説明で不良と思われる部分の「技術的判断基準」を話題としましたが判然としませんでした。関係機関への要望に当たっては、必ず該当場所や状況の写真を添付します。

今年は、点検結果を以下のようにまとめました。
「車道」は

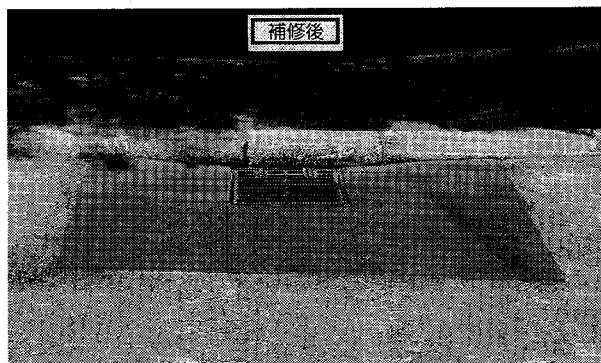
- ①停止線二カ所
- ②標識一カ所
- ③標識・停止線増設一カ所
- ④ガードレール一カ所
- ⑤路面三カ所
- ⑥マンホール十カ所
- ⑦集水マス十カ所

「歩道」は

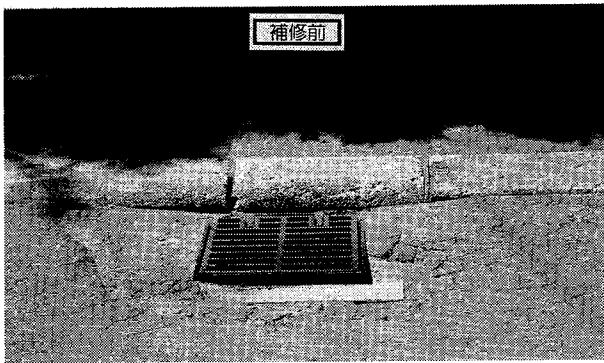
- ①路面沈下五カ所
- ②この段階で点検結果には札幌市(土木センター)と公安委員会(警察署)が担当するものが含まれていることが分かりましたので別々に要望することになりました。

なお、要望書の提出の前に「まちづくりセンター」にお願いして要望書の様式や担当機関別の整理や周知をお願いしました。

土木センターからは文章で対処予定を示していました。その結果、作業状況が把握でき、写真に残して役員会での報告に大変役立ちました。



(補修後)



(補修前)

現在は、公園整備や道路新設などまとまつた工事は「地区懇談会」など示されますが、生活に密着した地域単位の各種工事（公園・道路・電気・水道）の計画が事前に把握出来ず、個別の施工業者からの情報で対応していません。情報収集方法を改善してほしいと思います。

共働社会を指向するには情報の双方向性があります大切になると思われます。

その結果、担当機関が最善・最早の処理をしていただいても、地域住民にその努力が十分に伝わらないよう思います。

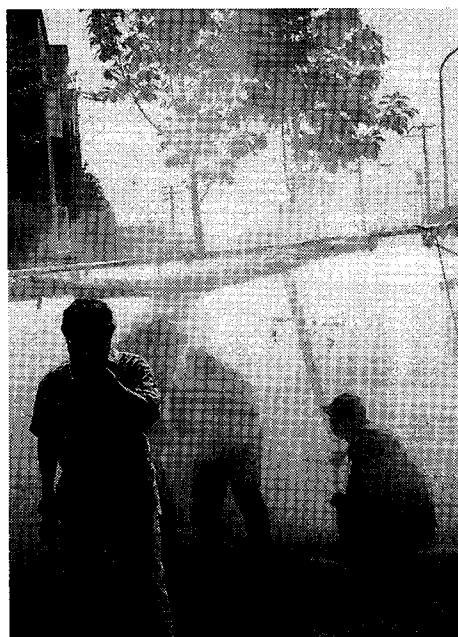
また、担当機関の計画や個人からの通報・要望で実施される場合もありますが、それらを町内会で把握できています。

①公園施設②街路灯③街路樹などが、住民からの要望があり、その都度対処していますが、処理予定や終了時期が確認が出来ない例もあります。

日常的な町内活動では



開会式 挨拶する大橋町連会長（右端）



ハンカチを手に煙道をくぐる

去る八月二十日（日）、丸紅⁽⁴⁾空地（平岡六条三丁目）におきまして、二百六十名を越える各町内会からのご協力を得、炎天下訓練に汗を流し、計画の総べてを効

果的に終えました。
訓練の一部を写真でご紹介します。（清田区役所広聴課提供）

平岡地区防災訓練参加三百余名か。
見て。聞いて。やってみて

平成十八年度【想定】
「石狩東部を中心とする震度7強の地震が発生、東部地区に甚大な被害をもたらした」

写真で見る防災訓練



天ぷら油火災の実験



救出・搬送訓練

「モエレ山頂」の出会いと発見 イサム・ノグチ氏の魂にふれて――



平岡地区町内会連合会 副会長

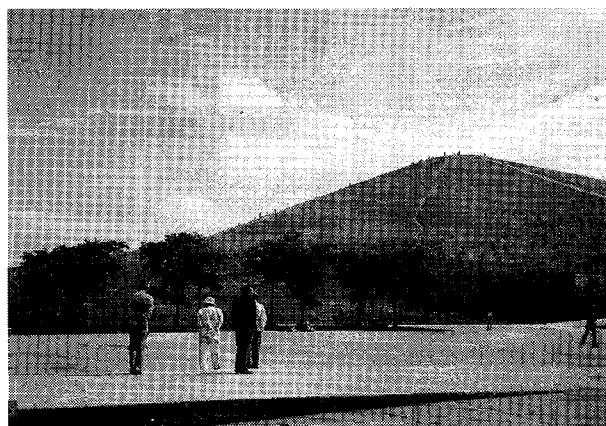
小澤正人

信

六月も下旬、若葉の洪水の好季節、好例の町連理事研修会の折、昨年完成オープンしたモエレ沼公園を訪れる機会に恵まれた。ここは、ごみの埋立て処分場であった所を市民のための公園にしたいと、世界的な彫刻家イサム・ノグチ氏が設計した注目すべき公園と聞いている。

駐車場から橋を渡り公園内に入ると、右手に現代的なガラスのピラミッドが目に飛び込んでくる。左手には芝生の緑も鮮やかな山がそり立っている。これが人工的に造られたモエレ山で高さは六十二メートル、東区で最高点とのこと。意を決して平岡公園町内会の山下会長とアタックする。山頂に立つてさわやかな風に疲れを忘れ広大な眺望を楽しむ。

三百六十度俯瞰するに、モエレ沼公園を包む札幌市、札幌市



(62メートルのモエレ山)

ここには、ジエットコースターもゴーカートも観覧車もない。こどもたちは芝生の上を「でんごろでんごろ」転がって歓声をあげている。また自転車を借りてサイクリングを楽しんでいる。すべて自分の頭で考え方を使い、工夫しながらエンジョイすることを学んでいる。このことは素晴らしいことだ。これこそ公園の備えておくべき大切な機能だと思つてゐる。

イサム・ノグチ氏が札幌を訪れ、ごみの埋立地を公園にしたいと設計に取り掛かった段階から、無機的で華美なものを排除し、シンプルで自然のありのままの素材を活用して、訪れる人々が安心して自然と親しみ自然の恵みを享受することができるよう祈りながら精魂込めて造形に没頭されたものと思う。

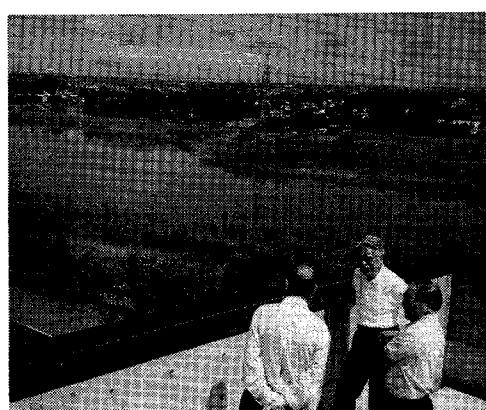
この山頂から見るかぎりイサム・ノグチ氏は、光、水、風、緑、石、音、香り、空、大地、これら自然の素材を巧みにコントロール

帰り際に橋のたもとで、のんびりと釣りを楽しんでいた男の人の姿が妙に印象に残つてゐる。

モエレ沼の造成のどこを見ても「あれもこれも欲しがらなければ」子どもも、大人も、それが分相応に、自然と一体感を共有することができるのである。牧歌的な公園として、末長く愛されに違いない。

どもたちが遊ぶプールがあり、その奥にサクラの森が見える。西側手前にブレイマウンテンとステンレスの三角錐が配置されている。山の南側にはテニスコート、野球場、陸上競技場があり、どの施設も満員の盛況である。

ここには、バランスよく配置して心の和らぐ造形美を演出している。そのバックボーンは英文学者で詩人の父「野口米次郎」から受継ぐ東洋的な思想、「禪」的な「足るを知る」ということ、つまり「現状を満ち足りたものと理解して、不満をもたないですべてよしとして受け入れる」という彼の哲学である。



(展望台から豊平川を眺む)

団体優勝

東町内会

個人男子 優勝 古賀 儀一さん
女子 優勝 船津 紀子さん

「町連」体育部長 蟻崎 理(記)

六月二十五日、昨夜の雨が気になりましたが、朝、目を覚ますと、幸い雨は上がりっていました。天気予報を見ると、今日は「晴れ後曇り、予想最高気温は、24度」となっていました。

午前八時前にパークゴルフ場へ行つてみると、もうたくさん的人が、プレーを楽しんでいました。殆どの方が、本大会に参加される方のようです。

参加の受付を済ませ、開会式では大橋「町連」会長より、……優勝めざして頑張ってください。……との激励の言葉があり、続いて、昨年団体優勝のブルースカイチームから優勝カップの返還の後、それぞれのスタート位置に分かれ、一斉にスタートしました。



戦況交流、前半戦終了



団体優勝 東町内会

り悪戦苦闘している方もあるちこちで見られました。

プレー途中、「もう自分たたいてしまった」との声

レーオフによる勝負となりました。

成績

〈団体の部〉

優勝 東町内会
準優勝 わかば会

〈個人の部〉(男子)
優勝 古賀 儀一
準優勝 楠 稔
三位 今野 力一

おめでとうございます。
参加された皆様ご苦労様でした。また来年お待ちしています。

〈女子〉
優勝 船津 紀子
準優勝 楠 秋子
三位 辺見 繁子



プレイオフの楠さん(中央)、優勝の古賀さん(右)

も聞こえきました。

正午過ぎてプレーを終えマーカーによつてスコアカードが提出され成績が確定しました。

プレーが終わつて自信に満ちている顔、がっくり肩を落としている方などさまざまのようでした。

優勝争いは、団体戦では十五打差のブツチギリでしたが、個人戦の女子の部は一打差、男子の部は同スコアとなりニアピンによるプ

第九回 清田地区壮年野球大会

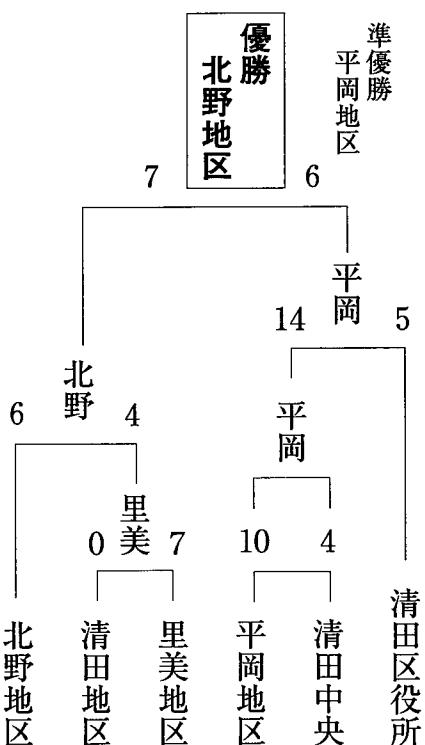
平岡地区代表チーム

決勝戦で三連覇の夢ならず

快晴の八月二十日(日)、清田公園野球場、サブグランドにおいて清田5地区代表と区役所チームなど計6チームによる定期戦が行われました。

落合昭造選手を代表とする平岡チームは、04年度、05年度の連覇に次いでの3連覇が悲願でした。

【戦況】トーナメント方式戦



打者 菅野(平岡)ショート右を抜く



カップを囲んで準優勝記念



好投を続けた今泉(P)、好リードの菅野(C)



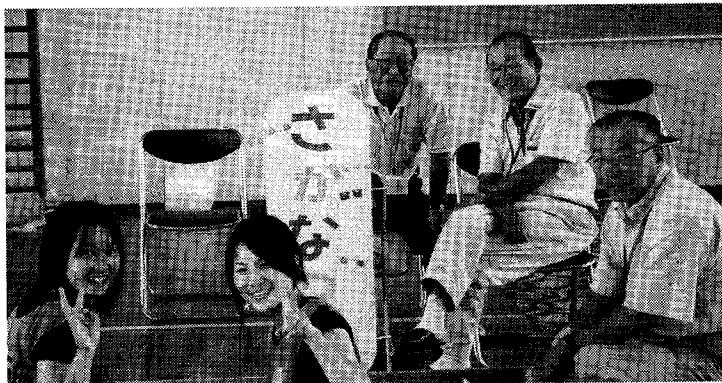
打者 塚本(平岡)、打球はセカンドを越え得点へつながる

第5回 平岡地区 キッズ祭り

■青少年の健全育成に

快晴の八月二十七日、平岡小学校体育館において五回目のキッズ祭りが行われました。

祭りは、平岡地区「民児協」を軸に区の子育て支援課、「福まち推進委員」、会場提供の学校、中・高校生のボランティアなど多くの方々の応援に支えられて、年々事業の質・量ともに充実させています。今年は、5年目にして500名を越える楽しい集いになりました。その一部を写真で紹介します。



準備OK、ボランティアと民生委員



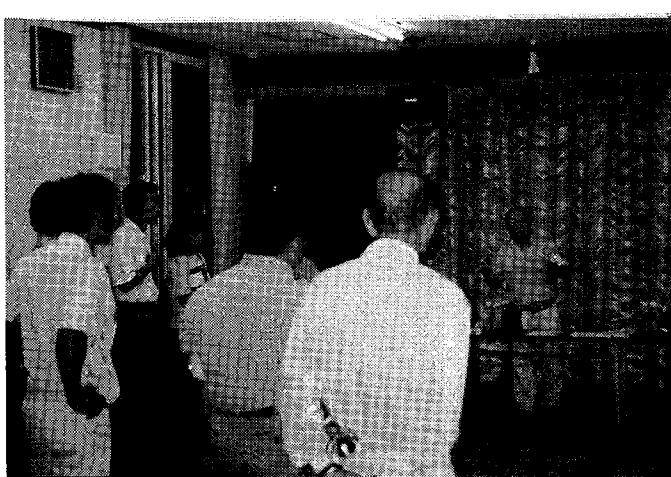
開場とともに押しよせた参加者



元気なかけ声に会場が湧いたおみこし



さかな釣りに夢中



パトロールの要領を説明する大宮防犯防災部長（右端）

今年も、7月26日～8月20日までの間の十日間、出動員数のべ300名が参加しました。その間、特筆すべき心配ごともなく、平岡の夏は平穏に過ぎたようです。

夏の防犯 パトロール

特別寄稿

暑い夏のくる度に

日本の八月は、六日の「ヒロシマ」九日の「ナガサキ」と地球から核兵器を廃絶することを願う、国際的記念集会が開催されます。

一九三一（昭和六・満州事変）年から十五年続いた戦争に、広島・長崎への原爆の投下による悲惨な被害の凄しさは、終戦への大きな引き金になつたことでしょう。その頃、感じ易い青年の心で感じた学校教育、体で感じた暮らしの実感が、八月の暑さとともにやつてきます。体験はそれぞれ違いますが、その実感は紛れもない歴史のひと駒に違ひありません。

戦後六十一年に想う



梅ヶ岡町内会
元副会長 池田 進



イメージ写真

今年もまた、熱い甲子園がやってきた。去年も駒苦高校の快進撃、そして七年振りの二連覇、「本当に凄い！」道民はもとより、全国の少年に、大きな感動と勇気を与えたと思う。

ふと、自分の六十一年前を振り返った。あと一ヶ月で満十五才の旧制中学の2

年（建築科）。すべての生活必需品が配給の世の中、商業なんか不需要、品物の生産にかかる工業高校に転換させられた新設校の生徒だった。

登下校には戦闘帽、足にはゲートル、何一つ設備のない中での授業、体育は柔道と剣道、それに恐怖の軍

事教練、集合・整列・点呼・歩調など遅れたり合わなかつたりすると容赦なく教官のサベルがとんでくる。

ソーンの進水式だ。船と同じように滑り台から海へ進水する時、滑り台をなめらかに滑り降りるようにクリーム状の石鹼を全面に塗るのだ。

そんな作業の中にも、一つだけ役得があつた。ケー

ソーンの進水式だ。船と同じように滑り台から海へ進水する時、滑り台をなめらかに滑り降りるようにクリーム状の石鹼を全面に塗るのだ。

古代文字の辺りを通り命からがら家に辿り着いた日もあつた。

夏休みと同時に空襲もなり、静かな天気の良い日、母と近くの農家に買い出しにいって終戦を迎えた。もしあの時、終戦にならなかつたら、一億火の玉となり先輩たちの後に続く覚悟で短期4年生で卒業し、幹部候補生として志願することを夢見ていた自分……本当に、今思うとぞつとする。

昨年の道新連載「戦禍の記憶」、そして、この度の市老連の「戦争体験」のように軍人はもとより沖縄・満州・樺太・千島など多くの民間人、特に子女は否応なしに戦禍に巻き込まれ、命がけの逃避、また今なお後遺症に苦しむ原爆症の方

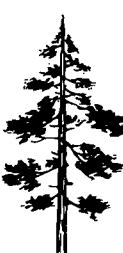
当時、勉強どころか援農・軍需工場や建設工事への動員などさまざま形で戦禍を受けて今日があります。

二度とくり返したくない忌まわしい経験であり、是非若い世代に語り伝えたい。

時間がなく、小樽築港のケーラン造りに必要な碎石運搬にまわされた。班毎に1台のトロッコが割り当てられ、碎石置き場から、トロッコに積んでコンクリートミキサーに入れる作業だったが、途中で脱線したりして大変だった。炎天下なかなか作業能率の上がらない時など、一日50杯などとノルマをかけ、「達成次第帰つてよい」などと競争させたのでヘトヘトになつて家に帰つた。

本土決戦間近の7月頃になつて、高島造船所の資材運搬など今になつて考えると一名が座つて乗れるだけの特殊潜航艇でなかつたかなが作業能率の上がらない時など、一日50杯などと勇気が与えたと思う。

やがて小樽も、空襲がしくなりグラマンのバリバリという機銃掃射で港方面でたくさん的人が死んだ。



学校を訪ねて

…シリーズ③

札幌市立平岡中学校

を訪ねました

札幌市平岡中学校（三橋誠司校長）は昭和六十年春に開校し、現在二十一年の歴史を刻みました。職員玄関を入って正面のガラスケースに、卒業生達の活躍の輝かしい足跡が見られます。スクールバンド、卓球、陸上、柔道、バレー、ボールをはじめ、書道など全国、全道での活躍を伺い知ることができます。

この度は、極く最近の様子をお伺いにあがりました。

平岡中学校



三橋誠司校長

今年の挑戦

そのため本校でも、昨年

評価の二期制を導入

昨年と違い、全学年が四月に学力テストを実施しました。生徒一人一人の学習状況の把握とそれぞれの課題を見付けることが目的でした。今後、より精度を高めるために、全国規模の学力テストを受け、本校生徒の状況を知る必要があります。



度「学
校評価」
を実施し、
その結果を基
礎基本の確
実な定着と
学力向上、
「落ち込
んでいた霧
囲気」、「落
ち着いた霧
囲気」、
生徒たちをはぐくむ学校は、
伝統を大切にするとともに、
これから社会に生きる
生徒たちをはぐくむ学校は、
伝統を大切にするとともに、
より良い教育活動を行うた
めに、適宜検証を行い、成
果と課題を明確にし、改善
のための具体的な手立てを
考え、次の行動を行うこと
が大切と言われております。

HP <http://www.hiraoka-j.sapporo-c.ed.jp/>
TEL 883-3761

■4月に全学年一斉学力テストを実施

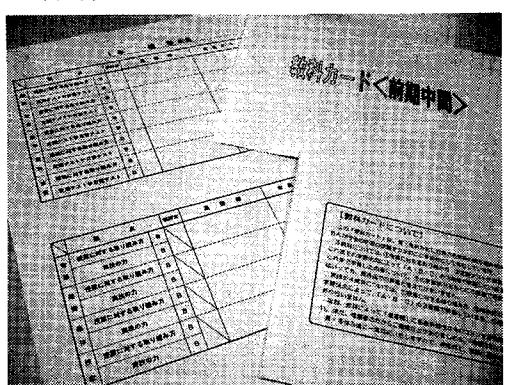
り組めるよう一学期の学習状況を家庭に知らせる「教科カード」を作成し配布しました。

■「平岡タイム」を導入

唱コンクール」および、「日常的な学習の成果の発表」とする機会にしました。また、文化発表会にふさわしい講演会も設定することにしました。なお、子供たちの楽しみのひとつであるバザーはPTA活動にお願いして残すことになりました。

■「文化発表会」を実施

文化発表会が終わるとわると後期に入ります。これまでには学校祭が終わると十一月中旬まで合唱コンクールの準備に追われています。しかし、今年は「文化発表会」にしたことで、授業時数や先生たちと教育相談を行う時間が増え、時間的なゆとりが生まれるので、学力向上につながる取り組みができそうです。



評価の二期制とは、授業を前期・後期の二期にわけ、各教科の評定を「前期・後期」の年二回行う。このことにより、従来より長いスパンで授業が行われるため、評価資料も増え、生徒たちの学習状況をより確かに、きめ細やかに見取ることができるようになります。

■授業時数を増やす

本年度、従来のお祭的要素をなくし、「学校祭」と「合唱コンクール」を一つにまとめ「文化発表会」という名称に変えました。そして、十月四、五日を「合

●平成十八年度文化発表会のおもな予定

- ・文化後援会
- ・十月五日（木）
- ・十月四日（水）
- ・合唱コンクール
- ・総合学習の発表

※詳細後日ご案内予定

二 教育環境整備

■校舎内外の環境整備

校舎としては初めての試みとされる校舎内の壁塗りもPTAの全面協力で夏休み中に実施することができました。さらに今年は、生徒のボランティア活動による校内外の環境整備にも取り組みはじめました。六月二十九日には保健委員会活動とタイアップした



平岡南公園でのボランティア

た。

このように自分たちの手で学習環境を整備し、より良い学習環境づくりを行なうという「心」が育つための取り組みをしています。

●ボランティアに参加して

一年女子

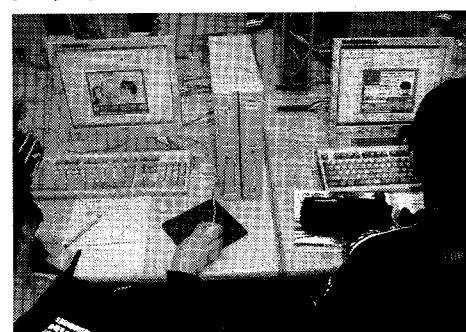
ごみ拾いボランティアがあるのを友達に聞いて参加。当日は、玄関の前にあふれるほどの人気が集まりびっくりしました。ごみ拾いは、初めての経験でしたが、おもしろいなあと思つたので、平岡公園の落書き消しには自分から参加してみるとこになりました。いつもなにげなく使っていた公園の遊具や建物の柱には、確かにたくさんの落書きや汚れがありました。

ヤスリをかけたり、ペンキを塗つたりしてあつという間に一時間半ぐらいた過ぎて、きれいになりました。いい気持ちでした。こういう機会でもなければできないことができました。また参加してみようと思いました。

■情報教育の推進と整備

本年度から本校では技術・家庭科を中心とした情報教育(特に情報モラル教育)に力を入れ推進しています。

そのため、コンピューター教室をより効果的に使うための環境整備を行ないました。また、一年生は総合的な学習の時間に外部講師(情報モラルが専門の大学教員)を招き授業を行なう予定で、高度情報社会を生き抜くために必要な知恵をはぐくむための取り組みを行なっています。



について校長自らが情報発信する「校長室Blog」など

で情報公開し、学校が今何をしているのかわかる取り組みを始めました。

また、毎日の給食を写真で紹介したり、バスワードで制限した家庭向けのページでは行事の様子を写真で見られたり、その他のプリント類もダウンロードもできるようにしています。



三 情報発信の学校へ

四月のPTA総会で学校

ホームページのガイドラインや個人情報の公開について保護者に説明し、五月中旬本校のホームページをリニューアルしました。

このホームページは、保護者や地域の方を対象に最新の学校の様子を伝えることを第一の目的とし「平岡中の日々Blog」や学校経営

き、更に生徒たちが明るく楽しく元気に学べる学校になるよう努力をしていきますのでどうぞよろしくお願ひします。

四 平岡中学校 部活動で鍛える

生徒に平岡中のよさを聞いてみたら「部活動」という答えが返ってきます。本校も他の学校と同様に、指導者不足から休部や廃部になる部活動もありましたが、本年度は次のような部活動が活動しています。

陸上、軟式野球、サッカー、バレーボール男、女、バスケットボール男、バドミントン女、卓球、スクールバンド、美術、パソコン。この他、大会参加のみの部活動は柔道、水泳、剣道、体操などがあります。

■その中から一例紹介

【女子バレー部】 ●中体連を終えて

地区大会では一セットも落とさず地区優勝。しかし、小さなミスを連発してしまったので、全市大会ではミスを出さず、またもつと声を出せるようにしたいと思いました。そして全市

惜しまれて退任

「地域の連帯」感や「住民意識」など「向こう三軒隣」的な気持ちの薄れを感じるこの頃、長い間町内会運営にご苦心なされたお二人の前町内会会长（平岡親和会前会長 土岐政美さん、平岡しんたく自治会前会長 谷 渡さん）がこの春、皆さんに惜しまれて退任されました。

町内会活動への激励をこめて、ご挨拶をして戴きました。



平岡親和会 前会長

土 岐 政 美

町内会活動の発想や 苦労を共感できるつながりが嬉しくて

振り返ると、平成五年からお引受けした会長職を十七年度で退任しました。

十三年間（実質は十五年間）歴代町連役員、単町会長、特に「まちづくりセンター」の皆様にはよくしていただきました。

《子供会のこと》

十四、五年前までは、盆踊りが長く続きました。年々子どもの参加が少なくなり、大人の一人よがりの自己満足が強く感じられるようになり、花火大会に切り替えたりしました。

野外のイベント希望が強く、サクランボ狩り、水族館などを経て水遊びに行き着きました。海水浴は事故が怖く、役員の責

任逃れのできる温水プールに決めました。

当時は、子ども会行事として始めましたが、「温泉なら女性部も一緒に……」となり、それなら「町内会全員を……」ということになりました。例年八、九十名、子ども、ジジ、パパ共々バスに分乗し、プールで泳ぎ温泉に浸り、大広間で昼食、お互い顔見知りとなり、振り返つてみると防犯事故防止に役立つたと思いました。

《後継者の選出》

多聞にもれず役員をお願いに行くと、沢山の理由をつけて断る人の多いなか、嫌な顔一つせず屁理屈一つ言わず長い間子どもの世話役をお受け戴いたKUさん、SAさんに感謝・

世事疎きままに平成十三年四月から五年間、平岡しんたく自治会の会長職を無事に努めることができましたことは、連合町内会の会長はじめ役員の皆様のご指導と前任者である森岡和夫さん、武田昭夫さんにしっかりと教いて戴いたレールの上を自治会役員の強力な助力を戴いて、歩くことが出来たと感謝している次第です。

平成十二年当自治会は創立二十周年を迎え、記念事業として自治会館の建設を計画、平成十二年度の定期総会で会員総意の承認を受け計画をすすめることになりました。

土地は、札幌市有地を借り受け（5年間、その後購入）、建物は、直ちに建築に着手、平成十二年八月竣工、自治会活動は



平岡しんたく自治会 前会長

谷 渡

感謝のひとこと

謝……本当に有り難う。

《雪国に暮らし想うこと》

これは、小生個人の想いですが、自宅周辺の生活道路までもなめるように機械の除雪が必要なものでしょうか。春になれば融けて流れてなくなる雪。これからも雪国の大自らに住む者の快適さにレベルを少し下げて、その税を高齢者の福

況になることが、そう遠くない気がするからです。もう一つ、塩化カルシウム、コンクリート、ゴム破片などの化学物質を含んだ雪が相当量河川などにまわすべきではないか。

《財政赤字団体的市の財政》

原油問題一つとっても、生活環境の広範囲にわたって快適さのレベルを下げるを得ない状況になることが、そう遠くない気がするからです。

もう一つ、塩化カルシウム、コンクリート、ゴム破片などの化学物質を含んだ雪が相当量河

川に直接捨てられている。土壤濾過を経ず捨てられる汚れた水は河川を広域汚染し、何年か後にはどうなることが不安である。紙数が尽きました。

末筆ながら、町連役員・現まちづくりセンターの皆様のご健康を祈念して筆をおきます。

長い間、有り難う御座いました。

自治会館の建設に当たっては、自治会創立の時から会員になると一世帯十万円の積立を義務づけられて出資していたのですが、バブルの時代は付近の地価が高騰し、自治会の地域では購入できる土地はなく、会館建設を断念し、資金を個人に返還した経緒もありました。

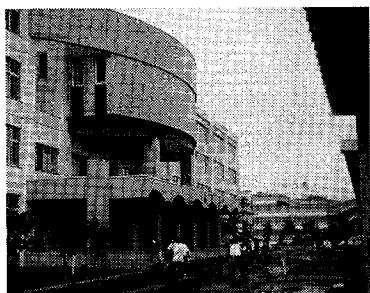
その後、近くに道路用地との交換による市有地が出来たことを知り急遽この土地を取得すべく役員会に図り関係機関に働きかけ現在の土地を入手することが進行しておりました。

会員その他の方々からの寄付金等は、会館運営委員各班長さんの協力で土地購入資金として順調に入金されました。

平成十七年度の定期総会で資産の取得についての承認を受け、事務手続きを進め、平成十七年五月二十五日購入金額を札幌市に納めることができ、同時に土地所有権付けで終了、地方自治体に定められた地縁団体、平岡に納めることができます。

私のこの五年間は、親に手を引かれて歩いた子供と同様であります。御指導とご協力戴いた皆様に深く感謝申し上げます。

祝 道立札幌平岡高校創立20周年



8時20分、登校中の正面玄関



20周年を迎える平岡高校

平岡に根づく高校教育の伝統

本校では創立二十周年の節目を契機に、生徒全員が身につけなければならぬ基礎・基本とそれぞれの生徒の進路実現に必要な学力を確かな学力と捉え、自学自習の精神の育成を重視しながら学力向上に取り組むとともに、ボランティア活動などを通して豊かな心を育み、体育活動などを通して健康や体力の向上を図りながら、未来を切り拓く社会に有為な人材の育成を目指して、各種教育活動の推進に取り組む所存であります。今後とも一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。



7月17日曇りの午前、公園の……とある尾根らしき樹林の小道に入る。とたん、全身に蟬の声、振動さながらに包まれる。下を見るとさなぎの抜け穴がいくつもある。「なるほど」と、思ひながら跨ごうとした朽ち木の右に白っぽいものを感じ目を凝らすと「えつギンリョウソウ……」驚きはそれだけでなかつた。薄暗が

全体が乳白色。先端に筒状の花をついている。
暗い林の中の腐植土に、白い鱗片葉の姿は「ユウレイタケ」と称されるのも頷ける。　〈渡辺 綱太郎〉

八ページの予定が、十二ページになりました。いつも編集に比べ、事業部の写真や特別寄稿など地域の生活味の渋んだ情報が多くしたからです。来年2月の冬号は、やむなく6ページ立てにしようと思っています。

九月四日朝、前夜からの雨は小雨になつたもののまだ止む気配はなかつた。
”雨の梅公園はどうだろう”と思ひ傘をして歩いてみた。濡れた道のあちこちに、かなりのわくら葉が道の端に散らばつてゐる。いつもなら、大小さまざまな蟻たちやシデムシ（死出虫）などのチョコマカと歩く姿が見えるのに、今日は蟬もキリギリスの賑わいも無い、静かである。まるで、大きな絵の中を歩いているような感じがする。

ふと足を止めると、無数の雨の粒が、暑かつた夏の空気を抱えるように草の斜面を濡らしている。夏の去つていく涼しさを見たような気がした。

（渡辺）

別名＝ユウレイタケ（幽霊茸） 平岡公園の腐植地に発見 ギンリョウソウ群にびっくり

あ
と
が
き